

令和2年度学校評価

**達成度(評価)**  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名	太良町立多良中学校
1 前年度 評価結果の概要	前年度の重点目標は、学校運営「働き方改革」、知(確かな学力)「学力向上」、徳(豊かな人間性)「志を高める教育」[「心の教育」・「いじめ問題の対応」、体(たくましい心と体)「健康・体づくり」の6点であった。どの項目においても、達成度がA~Bの結果となり、概ね達成できたとの評価結果であった。
2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
3 本年度の重点目標	①「学ぶことの楽しさ」を感じる、魅力ある・わかる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。 ②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切にし、将来の夢の実現を育む。 ③道徳を中核とした教育活動全般を通して、規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●主体的・対話的で深い学びを目指した授業、分る授業に向けた指導法の工夫・改善	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。 ●生徒意識調査で「一人一人にわかりやすく教えてもらっている」86%以上を目指す。	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ●「家庭学習のすすめ」を保護者に配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。 ●毎月1日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とし、家庭学習の充実に取り組み。 ●生徒、保護者に自主学習ノートの活用法や学習例を提示する。 ●学年掲示スペース、各教室の環境整備を図る。(校内研)							田中 本山
	○学習環境づくり	○意識調査で、生徒・保護者の家庭学習の充実度に対するプラス評価70%以上をめざす。 ○生徒意識調査で「どの授業も落ち着いて学習ができています」93%以上を目指す。	●「家庭学習のすすめ」を保護者に配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。 ●毎月1日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とし、家庭学習の充実に取り組み。 ●生徒、保護者に自主学習ノートの活用法や学習例を提示する。 ●学年掲示スペース、各教室の環境整備を図る。(校内研)							田中
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○意識調査で、生徒・保護者の心の教育に対するプラス評価93%以上をめざす。	●学年のスタッフをチームとして全職員で道徳の授業を行い、生徒の道徳心(道徳的価値)の向上に努める。 ●道徳の指導案や資料を共有し、ICTを活用して授業の充実を図る。 ●道徳便りを発行し、生徒・保護者に情報発信し、様々な考えや意見を共有するとともに、今後の道徳の授業に生かす。 ●ふれあい道徳を実施し、保護者に道徳の授業を公開する。							瀧川
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上をめざす。	●生活アンケートを月1回実施し、情報を共有しながら季節的関わりや早期発見、早期対応に努め、教育相談を適宜行っていく。 ●O-1を実施し、生徒の学校生活の状況を個別に把握することで、重支障生徒に対して日常的な支援を行う。 ●保護者との連絡を密に行うなど、小さな情報を見逃さないよう家庭・地域・関係機関との連携を強化する。							本山
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒70%以上を目指す。	●昼休みの運動場開放を行い、運動の参加を啓発していく。部活動への参加。							中島 平井 下村
	②「望ましい生活習慣の形成」	②健康意識の調査項目で、生徒・保護者の保健指導に関するプラス評価85%以上を目指す。	●保健室からの健康維持・増進に関する情報発信の充実を図る。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上	●栄養教諭の給食時間ミニ指導を利用し、生徒自身が望ましい食習慣を身につけようとする意欲の醸成につながるようなワークシート記入を推進する。							教頭
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●毎週、水曜日を「定時退勤日」に設定し、行事黒板に提示する。 ●運営委員会で、議案について細部まで検討し、職員会議は主に周知・確認の場として時間短縮を図る。 ●連絡事項は「スクールネット」「テレビモニター」を活用し、連絡会等の回数、時間を短くする。							
●家庭・地域と連携した「開かれた学校づくり」のための工夫・改善	○学校行事や授業参観への保護者の参加率40%以上を目指す。	○学校行事や授業参観への保護者の参加率40%以上を目指す。	●学校だよりや学年・学級だより、学校情報メール等を活用して、家庭への連絡や情報の発信・提供に努める。 ●学校行事や授業に外部指導者(地域の方)を講師として招く。							教頭

  

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○支援が必要な生徒に対する理解に努め、個に応じたきめ細かな対応ができる校内支援体制の構築を図る。	○意識調査で、生徒・保護者及び教職員の特別支援教育に対するプラス評価85%以上をめざす。	●個別の支援計画を作成し、特別支援会議やケース会議を適宜開催し、職員の間で共通理解のもと、適切な支援の在り方を探っていく。 ●夏季休業中に講師を招いての研修会を含め、特別支援教育に関する研修会を数回行うことにより、それぞれの生徒に対して適切な対応ができるようにする。 ●必要に応じて保護者、専門機関や特別支援学校等との連携を図る。							尾形
○学校行事への参画	○生徒の学校行事への参画意識の向上を図る。	○意識調査で、生徒・保護者の学校行事に対するプラス評価85%以上をめざす。	●生徒一人ひとりが役割を持ち、出席の機会が増えるように検討し、各学校行事等を実施する。 ●生徒会活動を中心に、「気づき、考え、行動する」を念頭に置いた指導を展開していく。 ●小中連携を活かし、生徒会活動をさらに活性化させる。							織田 中島浩

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--